

## 杉本精機 株式会社

切削加工と圧造加工に対応する  
難削材加工のプロ集団

納期相談  
コスト相談  
オンライン技術  
メイドイン  
ジャパン  
試作可  
小ロット  
量産対応



多種多様なチタン製品の加工を手がける

## 主な事業内容

ボルト・ナットなど  
金属部品の製造

## 主な取引先(納入先)

国内主要二輪メーカー、建築資材メーカー、  
医療機器部品メーカーなど

## 主な製品

レース用バイク部品、シャコ万力・織機用  
などの各種ねじ、安全ベルト留め金など

業務内容  
難削材加工への  
対応力で評判

杉本精機は、昭和38年に東大阪市で創業。以来、切削加工や圧造加工でねじやボルトを製造し、二輪車やロボットのほか、安全ベルト、織機などの製造会社へ供給してきた。金属のどんな形状、加工でも対応できる確かな技術と創造力“を経営方針とし、チタンやハステロイ、インコネルなどの難削材加工に対応することで、顧客から高い信頼を得ている。また、3DCADを活用して工法検討を行い、高精度に加工ができるのも同社ならではの強み。

強み  
切削と圧造の  
両方に対応、金型設計も

最大の強みは経営方針どおり、どんな難削材であっても顧客の要望に応じて多様な形状に加工できること。3DCAD上での工法検討を得意としており、作成した製作図面上で微少な曲面や形状および方向、位置関係を正確に把握し、工具の動かし方を精緻に検討したうえで加工を行う。加えて、同業では珍しい切削加工と圧造加工の両方に対応し、金型設計も自社で行えるのも強みだ。複雑形状部品の製作はもちろん、同業他社からの追加加工の受注につながっている。

こうした受注への柔軟な対応に向け、受注から出荷まで一元管理する進捗管理システムを自社開発した。併せて、主要設備には稼働信号をパソコン上で確認できる“見える化”装置を搭載し、QCDの向上に役立てている。

継承  
50年前から  
チタン合金に着目

圧造加工で使用する金型設計・製作にかかる技術は、先代社長から継承したもの。圧造メーカーから使用しなくなった圧造金型を譲り受け、試行錯誤を重ねることで構築した。その後、この技術を磨き上げることで、切削加工と圧造加工の両方に対応可能となった。また、早い段階から難削材の一種であるチタン合金に着目したのも、現在の同社の強みにつながっている。半世紀前から目を付け、高精度な切削加工技術の構築に挑んできた。二輪バイクメーカー向けレース用チタン部品の加工では、顧客の期待値以上の高精度を実現している。チタン合金は医療機器分野などでの利用が広がっており、用途拡大に伴い、同社の出番が増えるのは間違いない。「不可能と思われる加工があれば、ぜひ手がけていきたい」。こう強く語る杉本和博社長は、継承した技術を大切にしつつ不可能に挑戦し続ける。

## 社長あいさつ



代表取締役  
杉本 和博さん

創業以来“できない”“助けてほしい”といった案件に取り組み、顧客とともに成長してきました。今では、国内大手二輪メーカーから通りすがりの釣り人まで、様々なお客様から相談や加工依頼がありますが、引き続き、それぞれの顧客の求めに応じてQCD向上に努めています。

## 主な保有設備

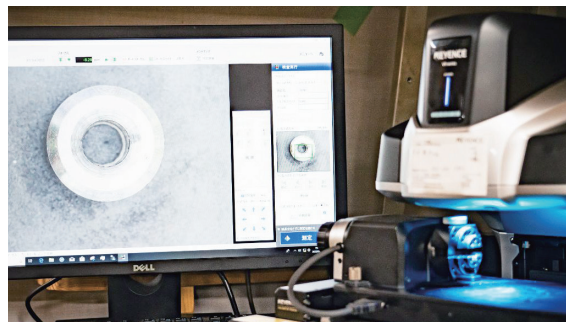
- NC旋盤 XL-100ほか  
高松機械工業製ほか 12台
- マシニングセンタ M140X1ほか  
ブラザー工業製ほか 11台
- CNC自動旋盤 SB-20Rほか  
スター精密製ほか 6台
- 三次元画像寸法測定器  
LM-X100TLほか  
キーエンス製ほか 13台
- ファイバレーザマーカ LM-3200Fほか  
ブラザー工業製ほか 2台

大阪  
05

住 所／〒578-0911  
東大阪市  
中新開2-6-29  
T E L／072-967-2552  
F A X／072-967-2553  
創 業／昭和38年6月  
設 立／昭和46年6月  
資本金／1,000万円  
従業員／26名



圧造用金型設計・製作も自社内で行う



画像測定機による検査



<https://www.sugimotoseiki.co.jp/>